資料提供:2024年8月19日（月）
発信元:六甲山観光株式会社

「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」開催概要

会期：8月24日（土）～11月24日（日）

六甲山観光株式会社（本社：神戸市灘区　社長：寺西公彦）は、2024年8月24日（土）から11月24日（日）まで神戸・六甲山上を舞台に現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」を開催します。

「神戸六甲ミーツ・アート」は、2010年から「六甲ミーツ・アート芸術散歩」として毎年開催しており、これまでに延べ520組以上のアーティストが参加しました。15回目を迎える今回は、名称を「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」に改め、神戸市ならびに阪急阪神ホールディングス株式会社によるサポートのもと、内容をさらに拡充し、神戸を象徴する山として六甲山の自然とアートをより一層楽しんでいただける芸術祭を目指します。本芸術祭の開催にあたり、注目のアーティスト・会場・主な企画・オリジナルグッズ等の最新情報をお知らせいたします。

「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」 ビジュアル

当ビジュアルに掲載の作品は、いくらまりえにより特別に制作された作品です。
同氏は新たに制作した作品をROKKO森の音ミュージアム内に展示します。

■お問い合わせ先
六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート事務局
TEL:078-891-0048（平日9:00～18:00）
HP：https://rokkomeetsart.jp/

公式HP

1. 概要

名称	「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」
会期	2024年8月24日（土）～11月24日（日）
開催時間	10:00～17:00（会場により一部異なります）
会場	神戸・六甲山上の9会場 ROKKO森の音ミュージアム、六甲高山植物園、六甲ガーデンテラスエリア、六甲ケーブル（六甲ケーブル下駅・山上駅・天覧台）、トレイルエリア、風の教会エリア、六甲有馬ロープウェー 六甲山頂駅、兵庫県立六甲山ビジターセンター（記念碑台）、六甲山サイレンスリゾート（旧六甲山ホテル）
総合ディレクター	高見澤清隆
主催	六甲山観光株式会社、阪神電気鉄道株式会社
特別助成・協賛	神戸市、阪急阪神ホールディングス株式会社
WEBサイト	https://www.rokkomeetsart.jp/
参加アーティスト	全61組（50音順に記載） Artist in Residence KOBE（AiRK）、URBAN KNIT（兼平翔太）、青木陵子+伊藤存、青野文昭、あつめやさん、雨宮庸介、アルネ・ヘンドリックス、いくらまりえ、ウ・ヒョンミン、nl/rokko project、大石章生、大野智史、岡田健太郎、小畑亮平、開発好明、金氏徹平、蒲原凪 × 田羅義史 × 村田優大、川俣正、北川太郎、城戸みゆき、クゥワイ・サムナン、倉富二達広、小出ナオキ、近藤尚、佐藤圭一、さとうりさ、さわひらき、周逸喬、鈴木将弘、田岡和也×Omult.Venzer、高田治、髙橋匡太、髙橋瑠璃、竹中美幸、田中優菜、土田翔、生田目礼一、楢木野淑子、西田秀己、西野達、野村由香、のん、HAFEN 本田耕、原田明夫、春田美咲、福島周平、布施琳太郎、船井美佐、堀田ゆうか、マキコムズ、松田修、水田雅也、三梨伸、三原聡一郎、宮永愛子、村上郁、葭村太一、ロプ・ファン・ミエルロ、渡辺篤（アイムヒア プロジェクト）、WA!moto. “Motoka Watanabe”、Waft Lab
料金	［前売］　販売期間：～8月23日（金） ナイトパス付鑑賞パスポート　大人3,800円、小人1,500円 鑑賞パスポート　大人2,800円、小人1,000円 ナイトパス　大人1,800円、小人800円 ※ナイトパス…夜間イベント「ひかりの森～夜の芸術散歩～」（P11に掲載）を鑑賞可能 ［WEB割］　販売期間：8月24日（土）～11月24日（日） ナイトパス付鑑賞パスポート　大人3,900円、小人1,600円 鑑賞パスポート　大人2,900円、小人1,100円 ナイトパス　大人1,850円、小人900円 ［当日］　販売期間：8月24日（土）～11月24日（日） ナイトパス付鑑賞パスポート　大人4,000円、小人1,700円 鑑賞パスポート　大人3,000円、小人1,200円 ナイトパス　大人1,900円、小人950円 シダレミュージアムセット券　上記に大人＋800円、小人＋400円 ※シダレミュージアムで開催中の「パワーワード展」も鑑賞可能 大人＝中学生以上、小人＝4歳～小学生、3歳以下無料

テーマ

新しい視界　Find new perspectives.

情報が目まぐるしく行き交う現在、私たちには提示された既存の視点で事物を判断し結論を急ぐ傾向があるようです。いつもの立ち位置から歩を進め山を登り森を抜けると眼下に新しい景色が広がるように、様々な表現手法で制作された現代アートは私たちの視界を広げる役割を果たしています。日常を少し離れ六甲山の魅力に触れながら旅をするように、様々な価値観と出会う芸術祭、そうした場をアーティストとともに生み出すことが私たちの願いです。

2024年の取り組み

1.出展アーティストの充実

過去最多となる招待・公募を合わせた61組のアーティストが参加します。国内外から幅広い視点で活動しているアーティストの作品をご紹介します。また、公募作品の募集条件を向上し、より優れた作品を募集・展示します。

2.芸術祭の象徴となる拠点エリアの充実

2023年にROKKO森の音ミュージアムに新設した野外アートゾーンをさらに拡充し、会期外でも四季を通じてアート作品を鑑賞できる場を充実させます。

3.トレイルエリアの充実

山中の散策路沿いに作品を展示するトレイルエリアをさらに広げ、アート鑑賞の楽しさとともに六甲山の新たな魅力にも出会えます。

4.こどもたちがアートに触れ合える機会の創出

ワークショップ等を通じて自然の中で子どもたちが現代アートに触れられる機会を増やし、次世代の文化芸術の担い手や支え手を育てていきます。

ごあいさつ

守ることと受け入れることからの発展

優れた眺望で知られる六甲山では、神戸港開港以来さまざまな人々や文化が行き交ってきました。守り育てられてきた豊かな山上の森にはそうした人々がもたらした歴史が積層しています。阪神間モダニズムに代表される神戸の多様な文化は、常に新しい事物に扉を開きながらも本質的な価値を見失うことなく更新されてきました。豊かな自然に恵まれた六甲山は、港町の気風を受け入れながら安らぎとふれあい、発見の山として神戸市民のみならず全ての人々へ継承されてゆかなくてはなりません。2010年にスタートした私たちの芸術祭はそうした六甲山をより多くの方々に知っていただくとともに、アートを通じて多様で豊かな感性を育み共有する場として時代に寄り添いながら成長していきます。様々なレイヤーをもつ六甲山、ぜひゆっくりと自然、文化、アートを味わってください。

総合ディレクター　高見澤清隆

2. 注目の出展アーティスト

のん

兵庫県生まれ。俳優・アーティスト。

これまで手掛けてきたリボンアートを出展。大量のリボンを使った、不気味と可愛さがぶつかり合う作風が特徴です。昨年10月に仙台PARCOで発表された、東北の伝統工芸「こけし灯篭」「赤ベコ」にリボンを纏わせた作品も登場します。また、これまで発表されてきた作品に加え、新作も公開予定です。展示場所は、ROKKO森の音ミュージアムの森の音ホール3階です。

クゥワイ・サムナン

1982 年カンボジア生まれ。

2006 年プノンペンの王立芸術大学を卒業。カンボジアで最も重要なアーティストの一人であるクゥワイ・サムナンは、出身国であるカンボジアの社会的な問題を主なテーマとして、現地に足を運び綿密に調査を重ね、軽快かつユーモラスに作品へ落とし込みます。本芸術祭では3点の映像作品を公開します。

クゥワイ・サムナン《Calling for Rain》2021年　©Khvay Samnang

Waft Lab（ワフラボ）

インドネシアのスラバヤを拠点とするWaft Labは、アート、サブカルチャー、サイエンス、テクノロジーを包括したDIY精神を原動力とし、領域横断な実践を行うグループ。六甲山付近の廃棄品やリサイクル状況などを調査し、野外インスタレーション作品を制作予定です。会場では、会期前と会期中にワークショップを六甲高山植物園で複数回実施し、参加者による成果も同会場に展開します。
[ワークショップ]
8月25日(日)・30日(金)　13:00～16:30／六甲高山植物園

Waft Lab《Pinarak》2023年　Wonderfruit Festival 2023、タイ

ウ・ヒョンミン

1991年　大韓民国出身。

幼い頃からK-POPの世界で活躍してきた経歴を持つアーティスト。国内外でK-POPアーティストとして活躍しながらも、虚像と実像の間で自分の内面に向き合い、自身の人生の純粋な光を取り戻そうと絵を描き始めました。今回は船をテーマに、六甲山に滞在しながら制作した作家初となる野外インスタレーション作品を公開します。

《A Letter with No Word》2023年、100 x 160cm, ミクストメディア

西野達

昨年大きな話題になった《ハチ公の部屋》など数々の大型プロジェクトで国際的に知られている現代アーティスト。「普段あまりアートに興味のない一般の人々」を観客と想定し、美術館やギャラリーという狭いアートシーンを捨て、屋外に作品を設置するスタイルで1997年にヨーロッパで作家活動を開始。「人間の想像力の拡張」をアートの存在理由とし、「笑い、暴力、セクシー」を武器に制作。本芸術祭では、六甲山での滞在制作により新作を発表します。

hoto：Wim Hanenberg

川俣正

1953年　北海道出身、フランス・パリ在住。

パリを拠点に世界各地でプロジェクトを進めるアーティストで、建物に木材を張り巡らせる大規模な作品や制作のプロセス及び鑑賞者の動きなども作品に取り込む「ワーク・イン・プログレス」という考え方で知られています。昨年発表した《六甲の浮き橋とテラス》に、今年は既存のテラスの奥に小さなテラスと水面から約10cm沈んだ沈下橋が増築されます。

Photo; Gallery Kamel Mennour,

渡辺篤（アイムヒア プロジェクト）

1978年　神奈川県出身・在住

自身の過去のひきこもり経験を起点に、生きづらさを抱える当事者と共同するプロジェクトを行う現代美術家／社会活動家。大阪湾を望む眺望スポット天覧台(六甲ケーブル)と風の教会エリアの2カ所で展示します。
[アーティストトーク]
8月24日(土)・25日(日)　14:00～14:30／風の教会エリア
8月27日(火)・28日(水)　19:00～19:30／天覧台

《月はまた昇る（プロジェクト「同じ月を見た日」より）》
2024年 天覧台（六甲ケーブル六甲山上駅に隣接）　撮影：岩本順平

青野文昭

1968年　宮城県出身・在住

「なおす一再生と循環」をテーマに制作。作家は廃棄物を集め、修復し、それまでとは異なる様相を出現させる行為を続けています。関西エリアでは初の制作・発表となる今回の作品は、六甲山の山道や空き地にとり残されていた「もの」たちが新たな生命を得て、私たちにその意味や関係性を見つめ直すよう、語りかけてきます。

宮永愛子

1974年　京都府京都市出身、同地在住

日用品をナフタリンでかたどったオブジェや、塩や葉脈、陶器の貫入音を使ったインスタレーションなど、気配の痕跡を用いて時間を視覚化し、「変わりながらも存在し続ける世界」を表現した作品で注目を集めるアーティスト。会期中のみ公開される安藤忠雄設計の「風の教会」で、神戸でのリサーチにより生まれた新作を発表します。

リサーチ風景 風の教会にて 2024年 めがねレンズ、外国の切手

雨宮 庸介

1975年　茨城県出身、山梨県在住。

ドローイング、彫刻、パフォーマンスなど多岐にわたるメディウムによって作品を制作。ありふれたモチーフを扱いながら、超絶技巧や独自の話法などにより、いつのまにか違う位相の現実に身をふれてしまう体験や、認識のアクセルとブレーキを同時に踏み込むような体験を提供します。本芸術祭では、六甲ケーブル六甲山上駅の待合室で新作を展示します。

Photo: Shin Natsuhara

nl/rokko project、アルネ・ヘンドリックス、ロプ・ファン・ミエルロ、三原聡一郎

「BEYOND HUMAN」をコンセプトに、4組のアーティストが作品を発表。

オランダでは人間と非人間が共存し、生態系の再生を促す統治モデル「Zoöp」が注目されています。オランダゆかりのアーティストである、nl/rokko project、アルネ・ヘンドリックス、ロプ・ファン・ミエルロはこれに共感しそれぞれの表現手段で文化人類学的視点をもった作品を発表してきました。
さらに、この考え方に沿って国内外で活動する三原聡一郎が加わった4組が「BEYOND HUMAN/自然界におけるコラボレーションの探求」をコンセプトに独自の作品を発表します。

nl/rokko project

アルネ・ヘンドリックス

ロプ・ファン・ミエルロ

三原聡一郎　撮影：山本糾

3. 会場

全体マップ

1. 六甲ケーブル(六甲ケーブル下駅・山上駅・天覧台)
2. 兵庫県立六甲山ビジターセンター(記念碑台)
3. 六甲山サイレンスリゾート(旧六甲山ホテル)
4. ROKKO森の音(ね)ミュージアム
5. 六甲高山植物園
6. トレイルエリア(黄色線の部分・オレンジ色線の部分)
7. 六甲有馬ロープウェー 六甲山頂駅
8. 六甲ガーデンテラスエリア
9. 風の教会エリア

1. 六甲ケーブル（六甲ケーブル下駅・山上駅・天覧台）

創業90年以上の歴史を持ち、開業当時の面影を残す「六甲山上駅」駅舎は近代化産業遺産にも指定されています。そのすぐ横にある「天覧台」は六甲山有数の眺望スポットです。駅舎、天覧台、そして赤と緑のケーブルカー車内に作品を展示します。

六甲ケーブル下駅

六甲ケーブル六甲山上駅

天覧台

2. 兵庫県立六甲山ビジターセンター（記念碑台）

六甲山の歴史、自然などの魅力を学べる施設で、ハイカーの憩いの場として親しまれています。
六甲山開発に尽力した英国人グルーム氏を讃える碑があるため、「記念碑台」とも呼ばれます。

兵庫県立六甲山ビジターセンター

アーサー・ヘスケス・グルーム像

3. 六甲山サイレンスリゾート（旧六甲山ホテル）

昭和初期から長年愛され、2017年に閉業した旧六甲山ホテルが、建築界の巨匠ミケーレ・デ・ルッキのディレクションにより修復・2019年にリニューアルオープンしました。作品展示場所は「旧館」と「駐車場」、道を隔てたレストラン「空のダイニング」店内です。

旧館

空のダイニング

4. ROKKO森の音ミュージアム

自動演奏器の展示・コンサートやオルゴール組立体験が楽しめるミュージアム。今年で開館30周年を迎えました。カフェ＆レストラン「森のCafé」も併設し、喫茶・お食事を楽しめます。四季の花が彩るSIKIガーデン～音の散策路～、その奥の野外アートゾーンを中心に作品を展示します。

ROKKO森の音ミュージアム

野外アートゾーン　船井美佐《森を覗く 山の穴》2023年

森のCafé　テラス席
※「ひかりの森～夜の芸術散歩～」開催時

5. 六甲高山植物園

冷涼な気候を活かし、世界の高山植物や寒冷地植物など約1,500種を栽培。園内を熟知したスタッフによる「花のガイドツアー」を毎日実施しています。「山小屋カフェ エーデルワイス」も併設し、喫茶・お食事を楽しめます。園内各所と「ショップ アルピコラ」奥に作品を展示します。

ロックガーデン

秋の六甲高山植物園

山小屋カフェ エーデルワイス

6. トレイルエリア

2023年に新会場となった、こもれびや森の空気を感じながら作品を鑑賞できるエリア。今年は六甲全山縦走路沿いにも展開するとともに、芸術祭会期限定で入場できる新たな会場が増えました。
ぜひ作品鑑賞とともに散策をお楽しみください。
※ハイキングの様に徒歩で巡るエリアです。歩きやすい靴でお越し下さい。

トレイルエリア　photo：伊丹豪

新池　川俣正《六甲の浮き橋とテラス》2023年
撮影：高嶋清俊

7. 六甲有馬ロープウェー 六甲山頂駅

作品のある「六甲山頂駅」と麓の「有馬温泉駅」の間を12分間で結びます。ゴンドラからは六甲山の雄大な自然が眺められ、有馬温泉駅周辺は紅葉の名所としても知られます。六甲山頂駅2階の休止線ホームには、2004年まで運行していた「表六甲線」のゴンドラと発着駅が残っています。

休止線ホーム

六甲山頂駅

8. 六甲ガーデンテラスエリア

山頂付近・標高約880mに位置する日本有数の眺望スポット。1日の終わりに1,000万ドルの夜景を楽しむのもおすすめです。レストラン「グラニットカフェ」「六甲山ジンギスカンパレス」「六甲ビューパレス」も併設し、喫茶・お食事を楽しめます。エリア内のセレクトショップ「ホルティ」は芸術祭のオフィシャルアートショップ。芸術祭オリジナルのお土産やアーティストが手掛けたグッズをお買い求めいただけます。

六甲ガーデンテラス

オフィシャルアートショップ ホルティ

1,000万ドルの夜景

9. 風の教会エリア

安藤忠雄設計「風の教会」を展示会場として特別公開する他、かつて教会とともにあった「六甲オリエンタルホテル」の跡地に作品を展示します。また、2022年に営業を終了した「旧六甲スカイヴィラ」と、その離れを利用した「六甲山芸術センター」でも数多くの作品が鑑賞できます。

風の教会（外観）

風の教会（内観）

六甲山芸術センター

4. 主な企画

オープニングイベント

招待アーティスト「Artist in Residence KOBE（AiRK）」の運営メンバーである、森山未來キュレーションのパフォーマンス作品「Kobe Rokko Meets Art × Artist in Residence KOBE 一山頂でのオープニングパフォーマンス一《秘儀 ― GOLD SHOWER》」を上演します。

日時：2024年8月24日(土)・25日(日)
[開場]18:00／[開演]18:30
※雨天決行・荒天中止

会場：新池（トレイルエリア）

出演：フランソワ・シェニョー、麿赤兒

音楽：スティーヴ エトウ、井原季子

料金：[一般] 4,000円
[鑑賞パスポート購入者割引] 3,500円
[22歳以下]3,000円
※全エリア立見自由席（税込）
チケット販売サイト（https://lit.link/airkkobe）

「ひかりの森～夜の芸術散歩～」

髙橋匡太がROKKO森の音ミュージアムのSIKIガーデンを《ひかりの実》で彩るとともに、六甲高山植物園では園内をラリー形式で回る参加型作品が今年も登場。さらに、竹中美幸が夜の植物園で35mmの映像フィルムと光を使った作品を展示するほか、会場に設置された作品が光に照らし出されて昼間とは違った表情が楽しめます。

会期：2024年9月21日（土）～11月24日（日）の土日祝

時間：17:00～20:00
※19:00各入場券販売終了

会場：ROKKO森の音ミュージアム、六甲高山植物園

出展：髙橋匡太、竹中美幸　ほか15組

料金：[ナイトパス]
大人1,900円、小人950円
[ナイトパス付鑑賞パスポート]
大人4,000円、小人1,700円
※当日料金の場合
※ナイトパスのみでは、17時まで開催している「神戸六甲ミーツ・アート2024beyond」の有料会場にはご入場いただけません。

こどもプログラム

2024年に注力する取り組みの一つに「こどもたちがアートに触れ合える機会の創出」を掲げており、こどもが楽しめる参加型作品の展示や、こども向けワークショップを実施します。

＜参加型作品の展示＞

《ウエルカム山小屋資料館～ある登山家の生涯～》／]田岡 和也 × Omult.Venzer

「架空の登山家の資料館」を題材にした、追体験型インスタレーションを発表します。見て触って動かして楽しむ展示と、会期中こどもたちに実施するワークショップを通じ、こどもと大人の学びが交錯する場所を作ります。

鑑賞可能時間 ： 10:00～16：30（受付終了16:00）
会場 ： 六甲山地域福祉センター（トレイルエリア）
料金 ： 無料

《ROKKOのDO》と《BE SUN GARDEN》／マキコムズ

《ROKKOのDO》は、訪れた人を巻き込んで作品に参加してもらい、3カ月の間に変化していく作品です。参加用のキットを受け取り、展示作品に手を加えていきます。外のテラスには、カラフルな作品《BE SUN GARDEN》を展示します。

鑑賞可能時間 ： 10:00～16：50（受付終了16:30）
会場 ： 旧六甲スカイヴィラ（風の教会エリア）
料金 ： 無料
※別途鑑賞パスポートが必要

＜開催予定のこども向けワークショップ＞

8月24日(土)	柴山水咲／透明のカケラに絵を描こう
8月25日(日)	小出ナオキ／空想のピクニックを描こう 小出ナオキと歩く作品世界
9月1日（日）	柴山水咲／透明のカケラに絵を描こう
9月8日(日)	金野まさみ／「墨すり体験」「立体に書を書いてみよう」「藍で書いてみよう」「植物を使って書いてみよう」
9月15日(日)	能楽師 笠田祐樹／伝統と歴史と古典にそっと触れてみよう
9月21日(土)	辻本愛／フォトコラージュ
9月23日(月・祝)	若林久未来／青写真を撮ってみよう
9月29日（日）	MIZPAM／おおきな絵を描いてみよう
10月5日（土）	船井美佐／山の穴から森を覗こう
10月13日(日)	金野まさみ／「墨すり体験」「立体に書を書いてみよう」「藍で書いてみよう」「植物を使って書いてみよう」
10月20日(日)	ハヤシジュンジロウ／仮面を作ってみよう
10月26日(土)	辻本愛／フォトコラージュ
11月3日(日)	MIZPAM／おおきな絵を描いてみよう
11月10日(日)	金野まさみ／「墨すり体験」「立体に書を書いてみよう」「藍で書いてみよう」「植物を使って書いてみよう」
11月17日(日)	辻本愛／フォトコラージュ

※最新情報及び詳細は、webページ（https://rokkomeetsart.jp/）にてお知らせいたします。
※ご参加には、当日有効な「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」鑑賞パスポート又は、会場施設の入場券が必要です。
※一部有料イベントがあります。

プログラムディレクター：後藤みゆき

ガイドツアー

「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」の主要エリアをバスと徒歩でめぐる大変お得なガイドツアーを開催します。作品の見どころ、作品設置の裏話や六甲山の魅力など、総合ディレクターやキュレーターの解説付きで巡ります。昼食は六甲山サイレンスリゾートで特別ランチをお楽しみいただけます。

2020年オフィシャルツアー開催の様子

＜案内人＞

高見澤 清隆
（総合ディレクター）

鷲尾 英玲奈
（キュレーター）

名称：アートガイドとめぐる神戸六甲ミーツ・アート

日時：2024年9月15日（日）、29日（日）、10月20日（日）
9:30～16:00

料金：5,000円／人（鑑賞パスポート、バス代、昼食含む）

行程：9:30　JR六甲道駅（三井住友銀行灘支店前）集合
↓
10:00　出発
↓
風の教会エリア
↓
六甲高山植物園
↓
兵庫県立六甲山ビジターセンター（記念碑台）
↓
六甲山サイレンスリゾート（ランチ）
↓
トレイルエリア（徒歩移動 約1.5km）
↓
ROKKO森の音ミュージアム
↓
JR六甲道駅　16:00着

[申込]
各ツアー催行日の4日前までにお申し込みください。
予約サイト（https://kpt.jp/plan-01/241172）

[主催等]
旅行企画・実施　六甲山観光株式会社（神戸市灘区六甲山町一ヶ谷1番32号）
兵庫県知事登録旅行業地域-867号営業区域神戸市
共催　兵庫県神戸県民センター
受託販売　神戸新聞旅行社

[問合せ先]
六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート事務局
TEL：078-891-0048（10:00～17:00）　※会期中（8月24日～11月24日）は土日祝日も対応
E-mail：rma-info@rokkosan.com

5. オリジナルグッズ

※金額はすべて税込

缶バッジ（6種） 各¥250

“山ロゴ”たちを連れて帰ることができる、毎年大人気の缶バッジ。

やまみつパイ（左） ¥651
やまみつレモン飴（右） ¥450

六甲山に咲く花々からミツバチたちが集めたハチミツ“やまみつ”をたっぷり使用した「やまみつ」シリーズが芸術祭オリジナルパッケージで登場。

手ぬぐい（35×90cm） ¥1,210

爽やかな色使いのオリジナル手ぬぐいです。

六甲ブレンドコーヒー

ドリップバッグ：1P ￥198／5Pセット ￥990
粉・豆（100g）：各￥780

スッキリとしたほどよい酸味が特徴のオリジナルブレンドコーヒーです。

サコッシュ ¥660

たくさん歩く芸術散歩のお供に。
マップやスマホ、鑑賞パスポートが入ります。

公式図録（29.7cm×21cm ） ¥1,320

発売前は各ショップ窓口で予約を承ります。

Coming Soon…

10/1
発売予定